

## 3-2 最大クラスの津波災害からの都市復興に備えた事前の取組

### (1) 都市復興における基本的な考え方

都市復興を想定した事前の検討にあたり、復興後は、従前よりも安全性の高い市街地とすることを原則とします。その安全性については、地域毎にその実情を踏まえて検討していきます。

#### ア) 復興後の県土・都市づくりに向けた基本的な考え方

- ・ 復興後は、従前よりも安全性の高い市街地とすることを原則とし、幅広い視点から個々の都市施設の配置、構造を見直して、できるだけ被災しにくい市街地を目指します。

#### イ) 都市復興における地域の実情の反映

- ・ 目指す安全性については、復興に要する期間やそれまでのコミュニティの維持・生業の再生など、十分に地域毎の実情を踏まえて検討していきます。

### (2) 都市復興に備えた事前の準備

速やかな都市復興の基礎となる情報を都市計画基礎調査や地籍調査などにより収集・整理するとともに、被災後に作成する都市復興基本計画の事前の準備として、広域的な課題を抽出し、検討・調整を行います。

#### ア) 迅速な都市復興の基礎となる情報の収集・整理

- ・ 被災状況調査や被災要因の分析に役立つ情報として、都市計画基礎調査を進めます。
- ・ 復興事業にあたり、土地の権利関係の把握に費やす時間などを短縮するため、地籍調査を促進します。特に津波浸水が予測される地域における調査の促進を図ります。
- ・ 庁舎の被災により復興の基礎となる情報を消失しないよう、バックアップ体制の整備などにより情報を確実に保管する取組の検討を行います。
- ・ 最大クラスの津波による被害想定調査を実施します。

#### イ) 都市復興基本計画の策定にあたっての課題の抽出

- ・ 広域的な課題としては、二線堤<sup>※37</sup>などの津波防護施設<sup>※38</sup>の整備の考え方、市街地が連担している地域において想定される事業手法と建築制限の手順・期間、災害により発生する廃棄物等の広域処理などが想定され、そうした課題の整理が必



防潮堤の役割を果たし津波浸水を防止した  
国道6号相馬バイパスの盛土区間

資料：東日本大震災教訓集

国土交通省東北地方整備局

<sup>※37</sup> 二線堤：堤防の市街地側に作られる第二の堤防のことをい、控え堤、二番堤ともいわれます。万一、1本目の堤防が決壊した場合に、浸水の拡大を防ぎ被害を最小限にとどめる役割を果たします。東日本大震災の復興にあたっては、最大クラスの津波を防ぐ防潮堤の整備が行われないこととなったために、整備される防潮堤の背後で道路等を高上げた盛土等に堤防の役割を担わせる「二線堤」の整備が、多くの被災地で検討されています。

<sup>※38</sup> 津波防護施設：「※3 津波防災地域づくりに関する法律」の項、参照。

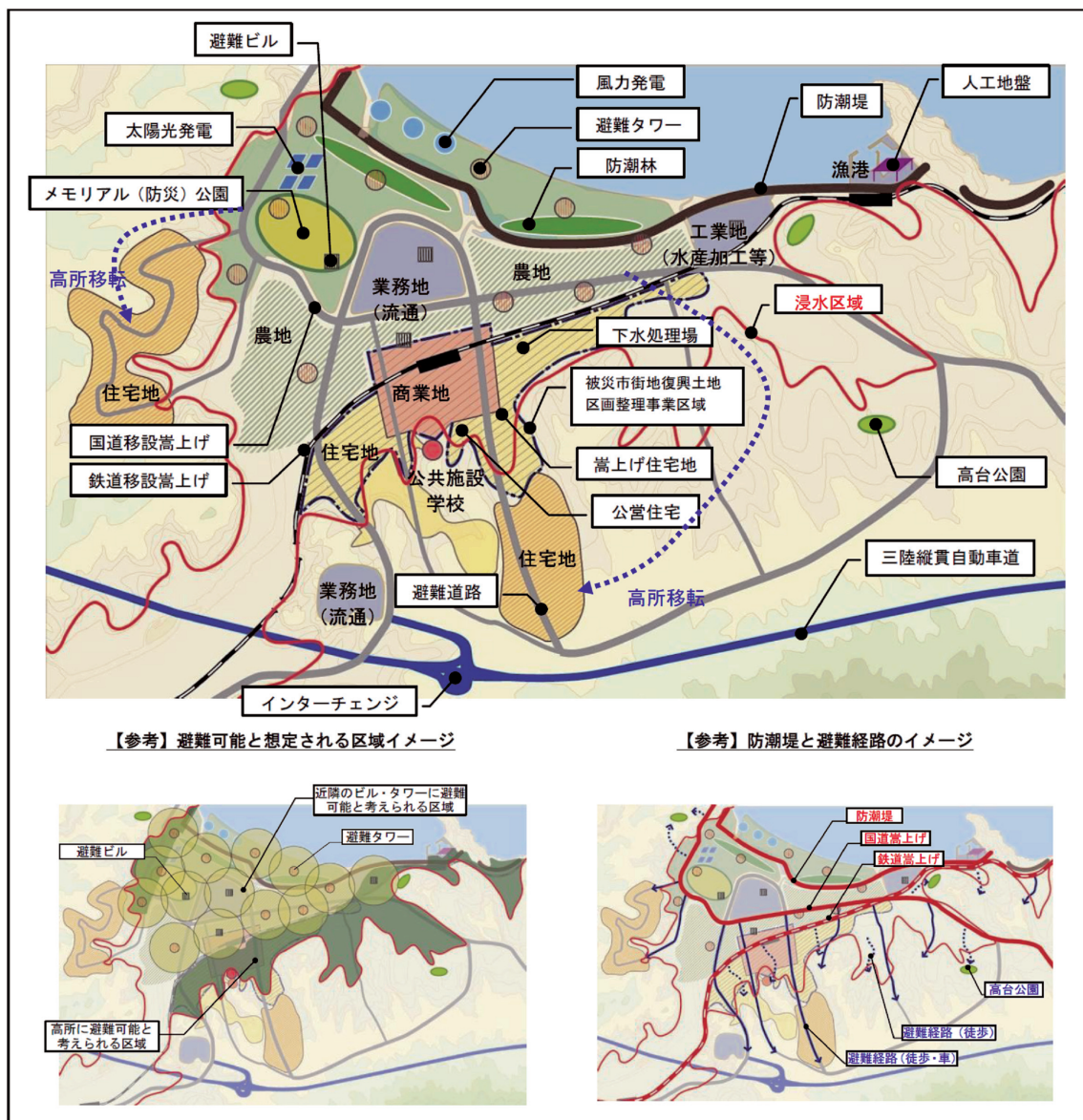
要です。

- それぞれの地域における課題としては、高台移転や土地嵩上げといった復興にあたっての基本的な考え方を共有することや、都市復興の手順と復興の速度を考えあわせた復興方針の検討などが想定され、そうした課題の整理が必要です。

### ウ) 都市復興基本計画の策定にあたっての事前の取組

- 都市復興基本計画の策定にあたっては、図上訓練の実施を検討します。その際には、都市復興に向けた手順や津波浸水予測図などを基にした、住居系土地利用、産業系土地利用の配置についての検討を行います。
- 市街地整備の事業手法に応じた建築制限の手法とその効果を整理します。
- 被害想定を踏まえて、災害により発生する廃棄物等の量や、必要となる一時保管場所の広さなどについて推計し、都市の復興過程を視野に入れた適切な配置などを検討します。
- 課題が広範囲に渡るので、県と市町村による検討体制の構築を図ります。

図3-5 復興モデル参考事例



資料：岩手県 復興基本計画 まちづくりのランドデザインのモデル 復興パターンA（都市再生型）